

2022年10月5日（水）

老球の細道693号

名コーチとの出会い「世界のコーチ、トスティン・ロイブル」⑥

会津バスケットボール協会 室井 富仁

先日埼玉アリーナでNBA プレシーズンマッチが開催された。ウオーリヤーズ対ウイザーズである。昨シーズン優勝チーム、NBA 史上最高のシューターと言われるステイファン・カリー、そして日本人最高のNBA選手八村塁を見られるとあって会場は超満員だった。私の息子もチケットを抽選で当てたので生で観戦できたようである。

わざわざアメリカまで行かなくても日本で、そしてテレビで簡単に観戦できるようになったことは嬉しい限りである。私はテレビで試合を見ながら自分のことを「ステファン・加齢」「加齢・トンプソン」と称してふざけていたが、誰にも相手にしてもらえなかった。

さて、しばらくぶりに『亭主元気でロスがいい』から抜粋と現在の心境などをコラボして書いてみたい。トスティンにはまだ行きつかないがこうご期待。

【NBA 観戦】

今はなくなってしまったが当時のロスのビックアリーナ「ザ・フォーラム」で「ロサンゼルス・レイカース」対「ポートランド・ブレイザーズ」のゲームを観戦した。3万人近く入るアリーナで、今では日本でも普通になったが、天井にハイビジョンのテレビが備え付けられていた。

この時は2回目の米国ツアーだったので観客席も少しコート近くで観戦することができた。レイカースには注目のマジック・ジョンソンがいたが、この時はエイズに感染したために選手を引退し、コーチングスタッフでベンチに座っていた。ヘッドコーチはジョルジョ・アルマーニに身を包んだパット・ライリー（現「マイアミ・ヒート」球団社長）。カッコ良すぎて私も日本に帰って来てからはスーツでベンチに入るようにした。しかし、スーツは「アルマー・イチ」「アルマー・サン」などのレベルダウンしたものだだった。

ハーフタイムにマジック・ジョンソンがコート中央に出てきて「エイズ撲滅運動」への協力メッセージを送った。観客は皆総立ちで彼のメッセージへ惜しみない拍手を送った。マジックはその後バルセロナ五輪で選手として復帰し、米国ドリームチームの金メダル獲得の一翼を担った。そしてマジックの参加により、マジック、ラリー・バード、マイケル・ジョーダンの三羽鳥が揃い、その後のバスケットボールの世界的人気に大きく貢献してくれた。

マジックに是非会って話してみたいと思ったが（私は当時は怖いものがなかった）、コートサイドへの通行はガードマンが厳重にチェックしていたので不可能だった。

米国のバスケットボール試合はプロも大学も国家斉唱から始まる。人気歌手、ミュージシャンの楽器であったり色々であるが、共通して厳粛な雰囲気で行われる。

「♪ Oh say, can you see, by the dawn's early light . . . ♪」（おお、暁の光に星条旗が輝いている）

当時を思い出しながら、やはりNBA観戦もビールも生が一番であると実感した。〈続〉